

調査の結果

1 県政に対する関心

問1 県政に対する関心

あなたは、愛媛県の行政（県が行っている仕事やその進め方）について、どの程度関心がありますか。次の中から一つ選んで番号を でかこんでください。

| | (%) |
|-------------|------|
| 1 非常に関心がある | 8.9 |
| 2 ある程度関心がある | 56.2 |
| 3 あまり関心がない | 25.1 |
| 4 まったく関心がない | 2.8 |
| 5 わからない | 7.0 |

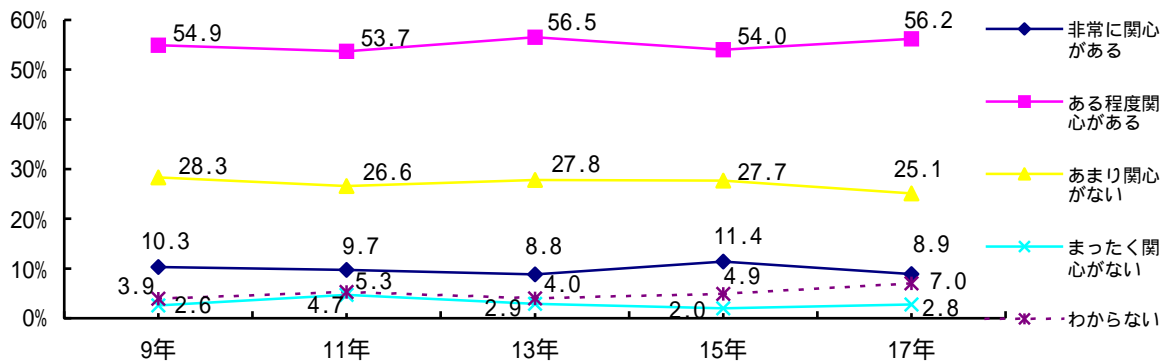
あなたが、愛媛県の行政に関心がないのは、どういう理由からですか。次の中から一つ選んで番号を でかこんでください。（N = 231）

| | (%) |
|-------------------------------------|------|
| 1 県政は、自分の身近な生活にあまり関係がないから | 14.7 |
| 2 県の施設を利用したり、県の仕事に実際に接したりする機会が少ないから | 27.3 |
| 3 県の仕事を信頼しているから | 0.9 |
| 4 県民個人の意見が県政に取り入れられるとは思えないから | 32.9 |
| 5 県政はむずかしくてわからないから | 13.4 |
| 6 その他 | 1.3 |
| 7 特に理由はない | 9.5 |

愛媛県の行政について、どの程度関心があるかを聞いたところ、「非常に関心がある」と答えた人の割合が8.9%、「ある程度関心がある」が56.2%で合わせて6割を超えており(65.1%)、概ね3人に2人の人が県政に関心を持っている。

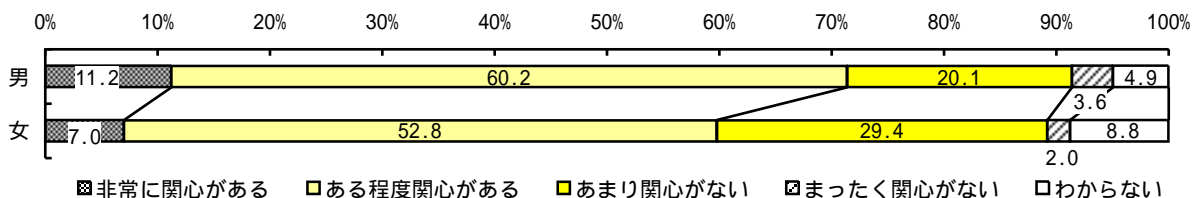
また、関心がない(「あまり関心がない」及び「まったく関心がない」と答えた人の割合は27.9%で、その内「まったく関心がない」と答えた人の割合は2.8%であった。

なお、15年調査(以下、「前回調査」という。)結果と比較すると、県政に関心がある人が0.3ポイント減少している。また、関心のない人が1.8ポイント減少し、その内「あまり関心がない」は2.6ポイント減少している。



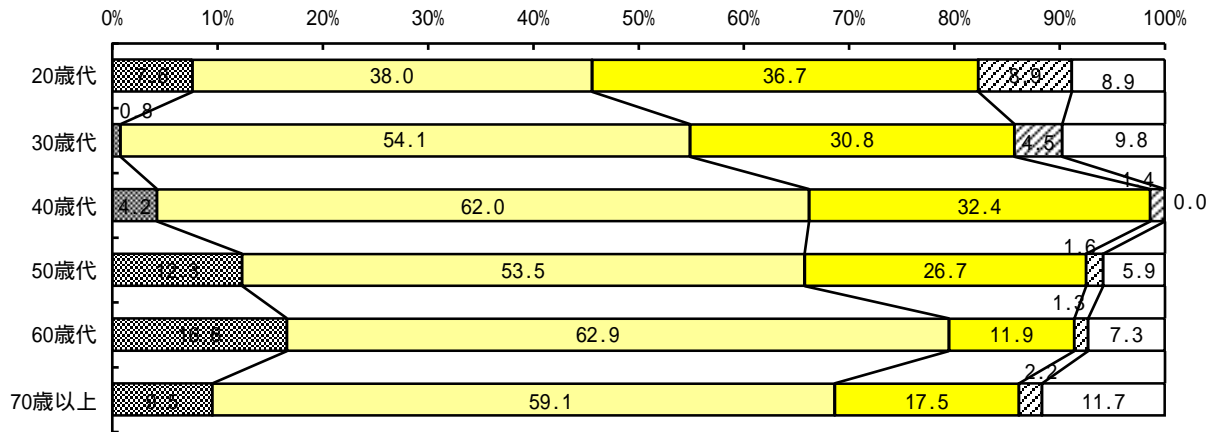
【性別】

性別にみると、県政に関心がある人の割合は、男性(71.4%)の方が女性(59.8%)より多く、中でも「非常に関心がある」と答えた人の割合は、男性(11.2%)、女性(7.0%)と男性が4.2%と多くなっている。



【年齢別】

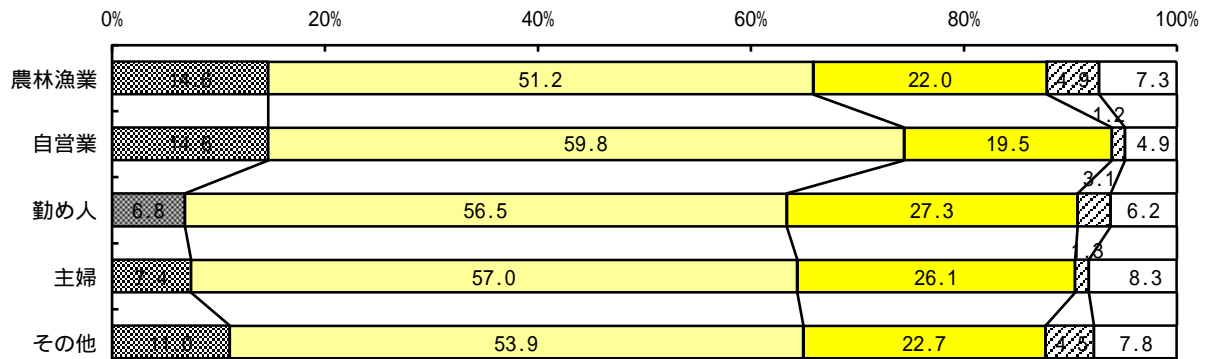
年齢別にみると、県政に関心がある人の割合は、60歳代で79.5%と最も多く、以下、70歳以上（68.6%）、40歳代（66.2%）、50歳代（65.8%）、30歳代（54.9%）、20歳代（45.6%）の順になっており、概ね年齢層が高いほど、県政に対する関心が高い傾向が見られる。



■非常に関心がある □ある程度関心がある ■あまり関心がない ▨まったく関心がない □わからない

【職業別】

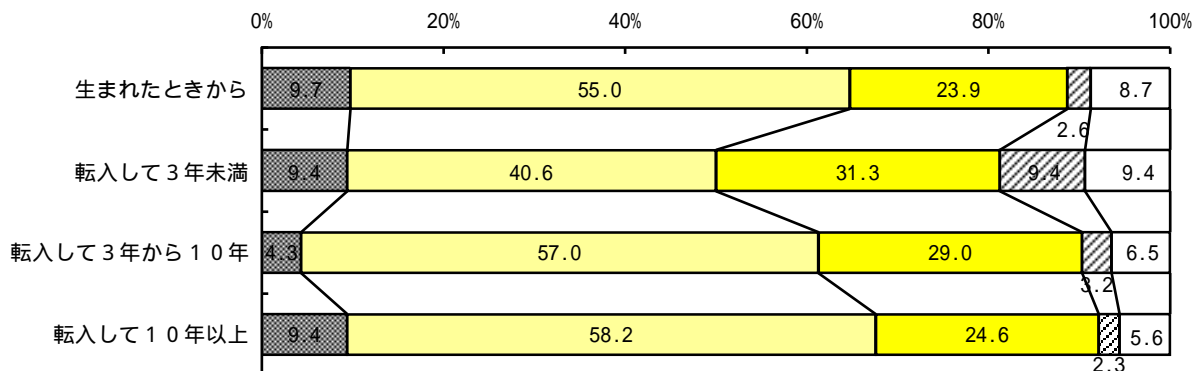
職業別にみると、県政に関心がある人の割合は、自営業（74.4%）で最も多く、次いで農林漁業（65.8%）となっており、勤め人（63.3%）が他に比べてやや少なくなっている。



■非常に関心がある □ある程度関心がある ■あまり関心がない ▨まったく関心がない □わからない

【居住年数別】

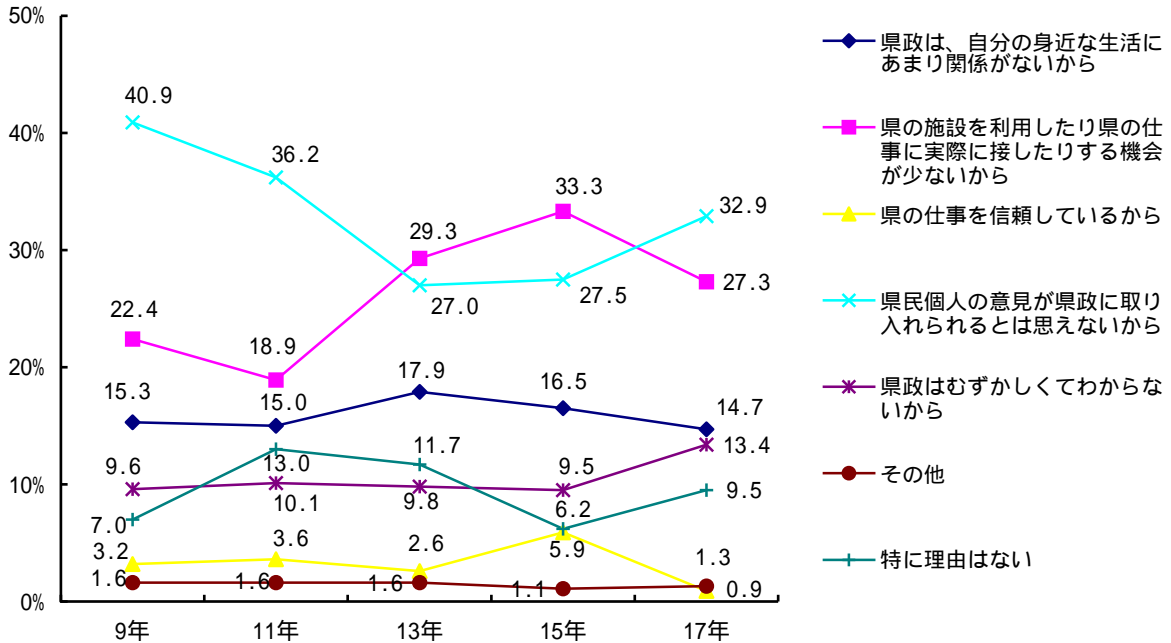
現在住んでいる市町における居住年数別（以下「居住年数別」という。）にみると、県政に関心がある人の割合は、転入10年以上で67.6%と最も多く、以下、生まれたときから（64.7%）、転入3年から10年（61.3%）、転入3年未満（50.0%）の順になっている。



■非常に関心がある □ある程度関心がある ■あまり関心がない ▨まったく関心がない □わからない

問1 - 1 関心がない理由

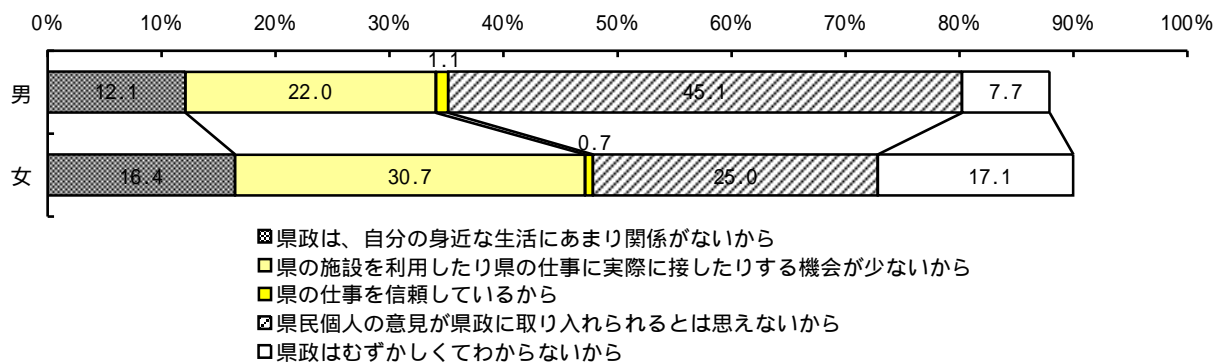
県の行政に「あまり関心がない」又は「まったく関心がない」と答えた人に、その理由を聞いたところ、「県民個人の意見が県政に取り入れられるとは思えないから」と答えた人の割合が32.9%で最も多く、以下「県の施設を利用したり、県の仕事に実際に接したりする機会が少ないから」(27.3%)、「県政は、自分の身近な生活にあまり関係がないから」(14.7%)などの順となっている。



【性別】

性別にみると、男性は「県民個人の意見が県政に取り入れられるとは思えないから」(45.1%)、女性は「県の施設を利用したり県の仕事に実際に接したりする機会が少ないから」(30.7%)と答えた人がそれぞれ最も多くなっている。

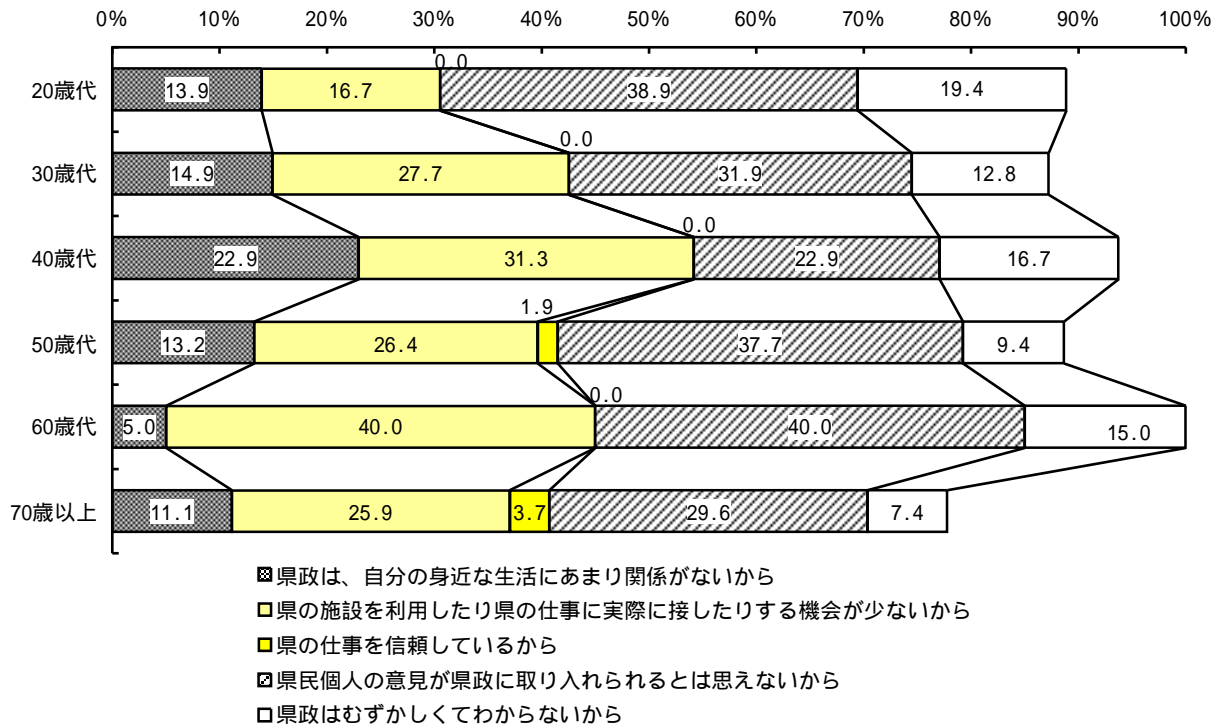
なお、「県民個人の意見が県政に取り入れられるとは思えないから」と答えた人の割合は、男性が女性より20.1ポイント多く、「県の施設を利用したり県の仕事に実際に接したりする機会が少ないから」と答えた人は、女性が男性より8.7ポイント多くなっている。



【年齢別】

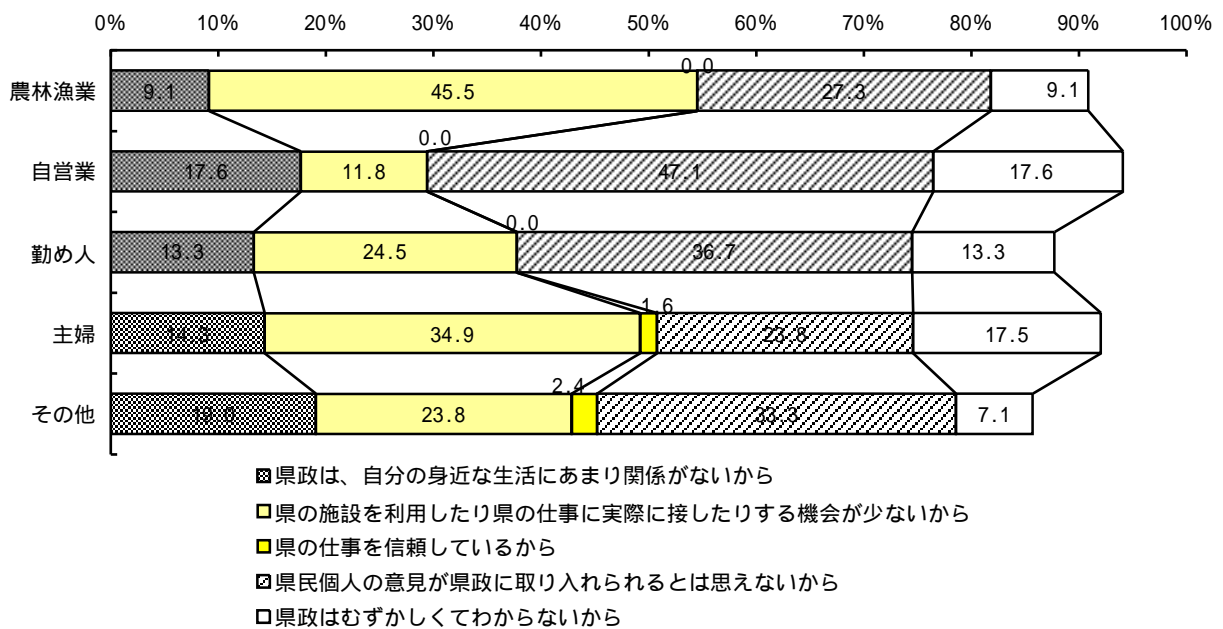
年齢別に「関心がない理由」をみると、「県民個人の意見が県政に取り入れられるとは思えないから」と答えた人の割合は、20歳代、30歳代、50歳代、70歳以上において最も多く、また、「県の施設を利用したり、県の仕事に実際に接したりする機会が少ないから」と答えた人の割合は、40歳代で最も多く、60歳代では、この2項目が同率で最も多くなっている。

なお、「県政は、自分の身近な生活にあまり関係がないから」と答えた人の割合は、40歳代で、他の年齢層と比べ多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、自営業、勤め人、その他では「県民個人の意見が県政に取り入れられるとは思えないから」と答えた人の割合が最も多く、特に、自営業では47.1%と半数近くになっている。また、農林漁業、主婦では「県の施設を利用したり県の仕事に実際に接したりする機会が少ないから」と答えた人の割合が最も多く、農林漁業で45.5%と特に多くなっている。なお、「県政は、自分の身近な生活にあまり関係がないから」と答えた人の割合は自営業とその他で、「県政はむずかしくてわからないから」は自営業と主婦で、他の職業と比較して多くなっている。



問2 参加意識

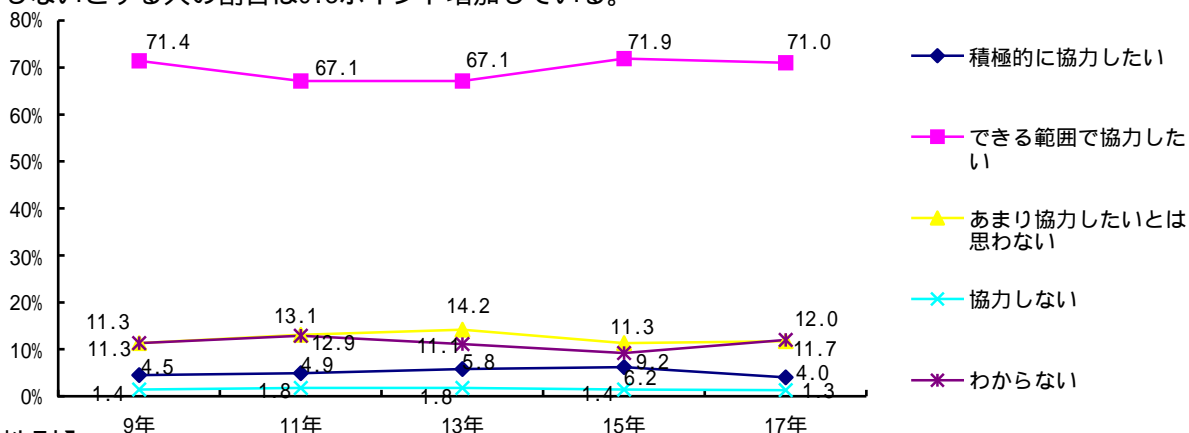
愛媛県では、開かれた県政を推進するため、県民の皆さんの県政への参加を進めています。あなたは、県や市町、各種団体から、県の事業などへの参加、協力を求められたときは、どうしたいと思いますか。次の中から一つ選んで番号を でかこんでください。

| | (%) |
|------------------|------|
| 1 積極的に協力したい | 4.0 |
| 2 できる範囲で協力したい | 71.0 |
| 3 あまり協力したいとは思わない | 11.7 |
| 4 協力しない | 1.3 |
| 5 わからない | 12.0 |

県や市町、各種団体から、県の事業などへの参加、協力を求められたときは、どうしたいと思うかを聞いたところ、75.0%の4人に3人はできるだけ県政に協力したい(「積極的に協力したい」(4.0%)及び「できる範囲で協力したい」(71.0%))と考えている。

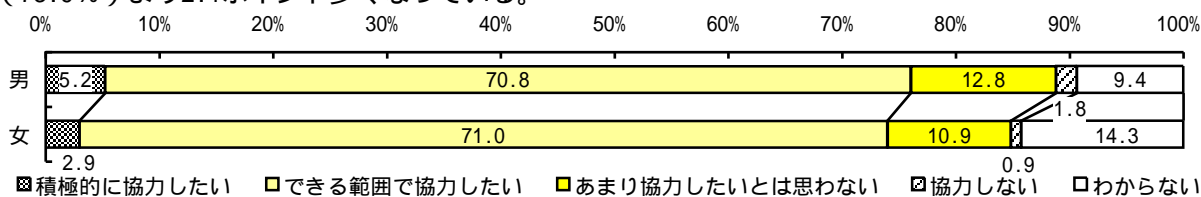
また、協力しないとする人の割合は13.0%(「あまり協力したいとは思わない」(11.7%)及び「協力しない」(1.3%))であった。

なお、前回調査結果と比較すると、県政に協力したいとする人の割合が3.1ポイント減少し、協力しないとする人の割合は0.3ポイント増加している。



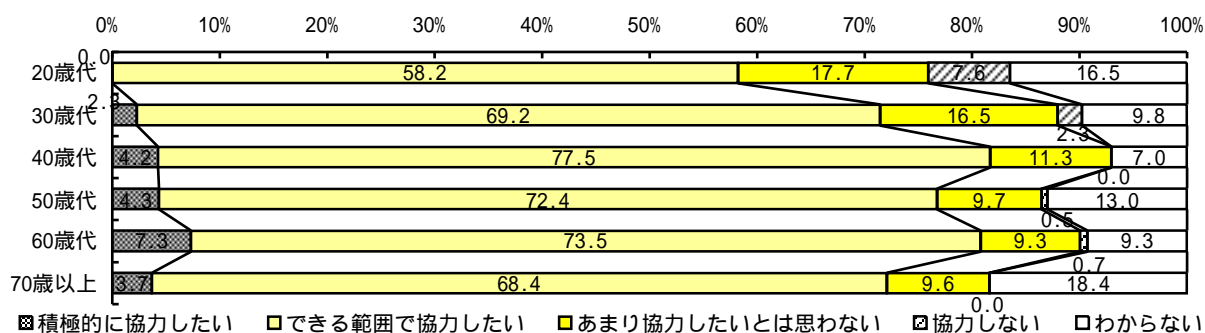
【性別】

性別にみると、「積極的に協力したい」とする人の割合は女性(2.9%)より男性(5.2%)の方が2.3ポイント多く、「できる範囲で協力したい」とする人は男性(70.8%)より女性(71.0%)の方が0.2ポイント多くなっており、県政に協力したいと答えた人の割合は、男性(76.0%)が女性(73.9%)より2.1ポイント多くなっている。



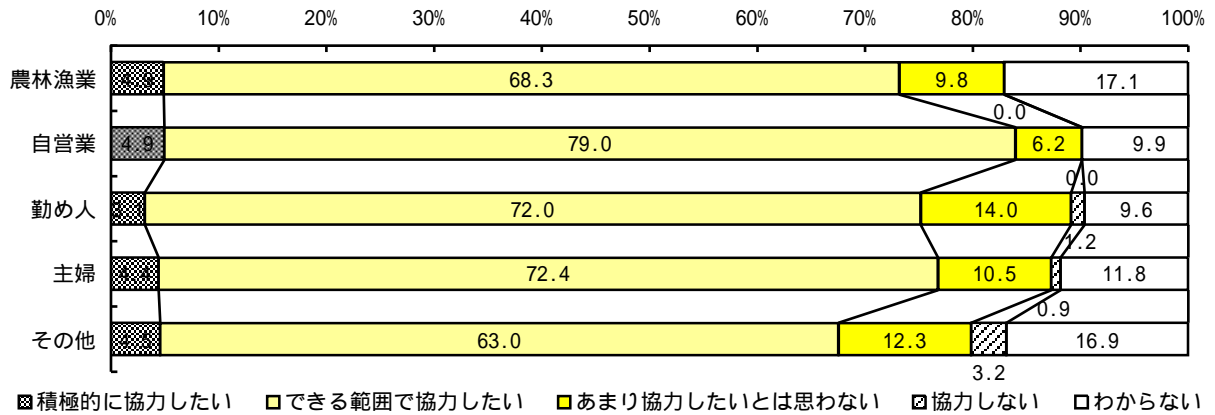
【年齢別】

年齢別にみると、協力したいとする人の割合は、40歳代で81.7%と最も高く、20歳代では58.2%で他の年齢層と比較して少なくなっている。



【職業別】

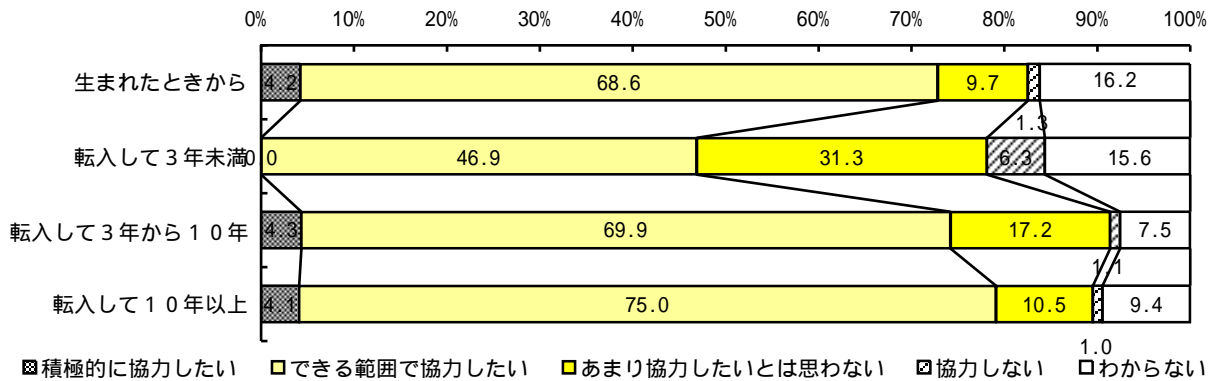
職業別にみると、協力したいとする人の割合は自営業（83.9%）で最も多く、次いで主婦（81.7%）の順となっている。



【居住年数別】

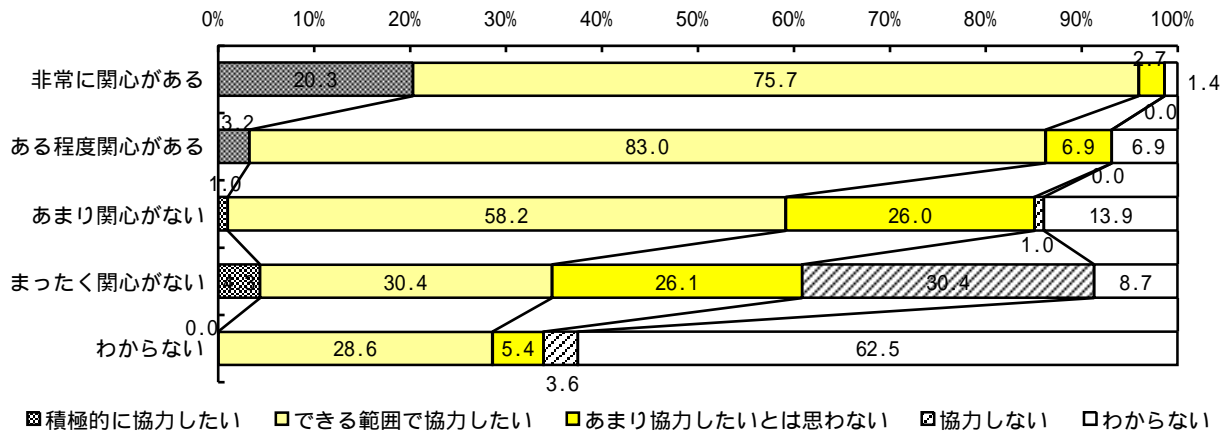
居住年数別にみると、協力したいとする人の割合は、転入して10年以上の人（79.1%）で最も多くなっており、転入して3年未満の人（46.9%）だけが5割を下回っている。

なお、「あまり協力したいとは思わない」、「協力しない」と答えた人の割合は、転入して3年未満の人でそれぞれ31.3%、6.3%と他の居住年数よりも特に多くなっている。



【県政に対する関心との関係】

参加意識を県政に対する関心の程度との関係でみると、県政に「非常に関心がある」人では、96.0%と、ほとんどの人が県政に協力したいと考えているのに対し、「まったく関心がない」人では、協力したいとする人が34.7%と低く、協力しないとする人が56.5%と他に比べて特にならなっているなど、県政への関心と参加意識には関連性があり、関心が強い人ほど参加意識も強いことがうかがえる。



問3 行政課題の認識

あなたは、これからの県政を進めるにあたって、何が特に重要だと思いますか。次の中から三つまで選んで番号を でかこんでください。

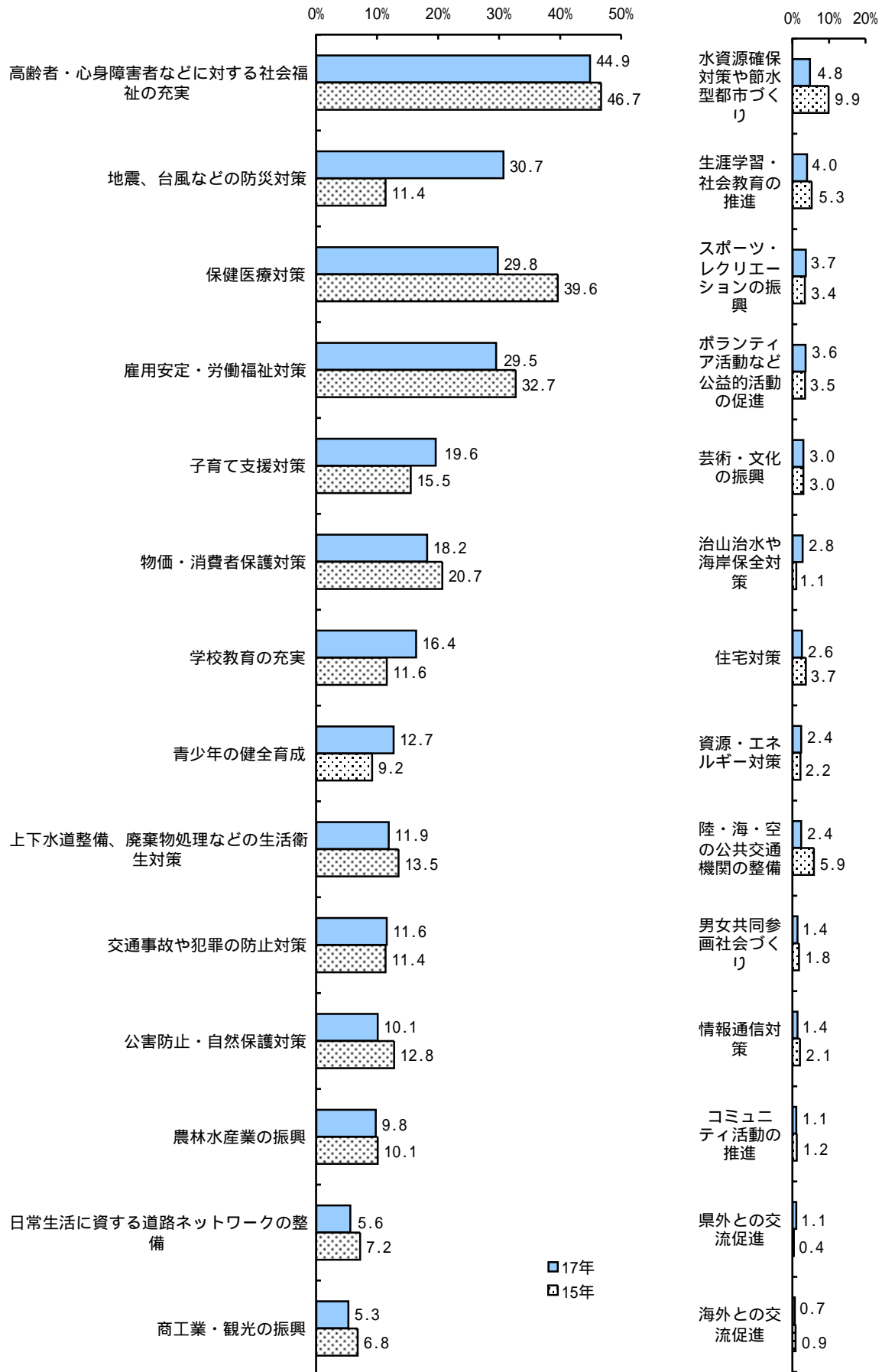
| | (複数回答) (%) |
|--------------------------|------------|
| 1 保健医療対策 | 29.8 |
| 2 高齢者・心身障害者などに対する社会福祉の充実 | 44.9 |
| 3 子育て支援対策 | 19.6 |
| 4 ボランティア活動など公益的活動の促進 | 3.6 |
| 5 公害防止・自然保護対策 | 10.1 |
| 6 住宅対策 | 2.6 |
| 7 上下水道整備、廃棄物処理などの生活衛生対策 | 11.9 |
| 8 物価・消費者保護対策 | 18.2 |
| 9 交通事故や犯罪の防止対策 | 11.6 |
| 10 地震、台風などの防災対策 | 30.7 |
| 11 学校教育の充実 | 16.4 |
| 12 生涯学習・社会教育の推進 | 4.0 |
| 13 コミュニティ活動の推進 | 1.1 |
| 14 青少年の健全育成 | 12.7 |
| 15 芸術・文化の振興 | 3.0 |
| 16 スポーツ・レクリエーションの振興 | 3.7 |
| 17 男女共同参画社会づくり | 1.4 |
| 18 農林水産業の振興 | 9.8 |
| 19 商工業・観光の振興 | 5.3 |
| 20 雇用安定・労働福祉対策 | 29.5 |
| 21 資源・エネルギー対策 | 2.4 |
| 22 治山治水や海岸保全対策 | 2.8 |
| 23 水資源確保対策や節水型都市づくり | 4.8 |
| 24 県外との交流促進 | 1.1 |
| 25 海外との交流促進 | 0.7 |
| 26 陸・海・空の公共交通機関の整備 | 2.4 |
| 27 日常生活に資する道路ネットワークの整備 | 5.6 |
| 28 情報通信対策 | 1.4 |
| 29 その他 | 0.6 |
| 30 わからない | 1.1 |

行政課題として28項目を示し、これからの県政を進めるにあたって何が特に重要だと思うかを聞いたところ、「高齢者・心身障害者などに対する社会福祉の充実」と答えた人の割合が44.9%と最も多く、以下「地震、台風などの防災対策」(30.7%)、「保健医療対策」(29.8%)、「雇用安定・労働福祉対策」(29.5%)、「子育て支援対策」(19.6%)、「物価・消費者保護対策」(18.2%)、「学校教育の充実」(16.4%)、「青少年の健全育成」(12.7%)、「上下水道整備、廃棄物処理などの生活衛生対策」(11.9%)、「交通事故や犯罪の防止対策」(11.6%)、「公害防止・自然保護対策」(10.1%)となっており、これら以外の項目については、それぞれ10%未満であった。

また、前回調査結果と比較すると、「地震、台風などの防災対策」と答えた人は19.3ポイント増加し、第10位から第2位に上昇している。

なお、前回調査結果と比べ増加率が大きい項目は、上記の「地震、台風などの防災対策」のほか、「子育て支援対策」で4.1ポイント、「学校教育の充実」で4.8ポイント、「青少年の健全育成」で3.5ポイントの増となっており、減少率の大きい項目は「保健医療対策」の9.8ポイント、「水資源確保対策や節水型都市づくり」の5.1ポイントの減となっている。

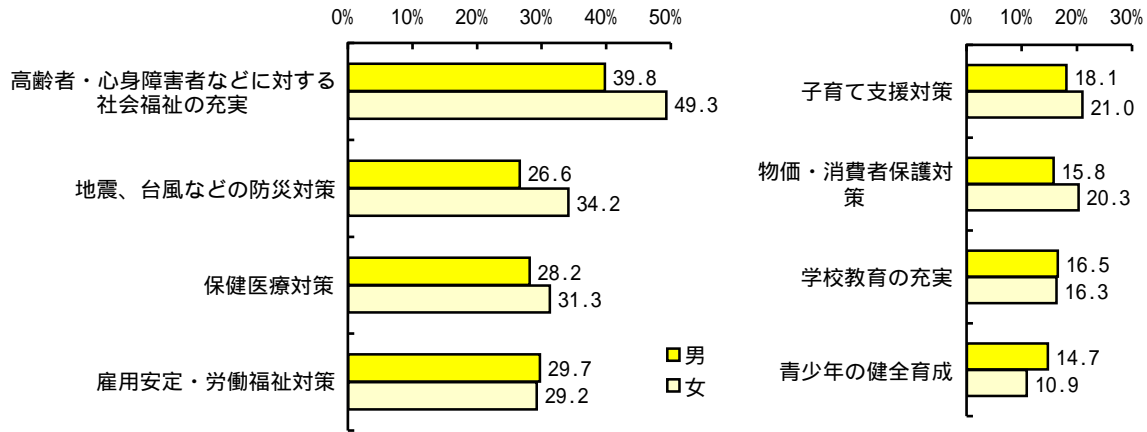
【行政課題の認識】



【性別】

上位8項目を性別にみると、男性、女性ともに「高齢者・心身障害者などに対する社会福祉の充実」と答えた人の割合が最も多くなっている。

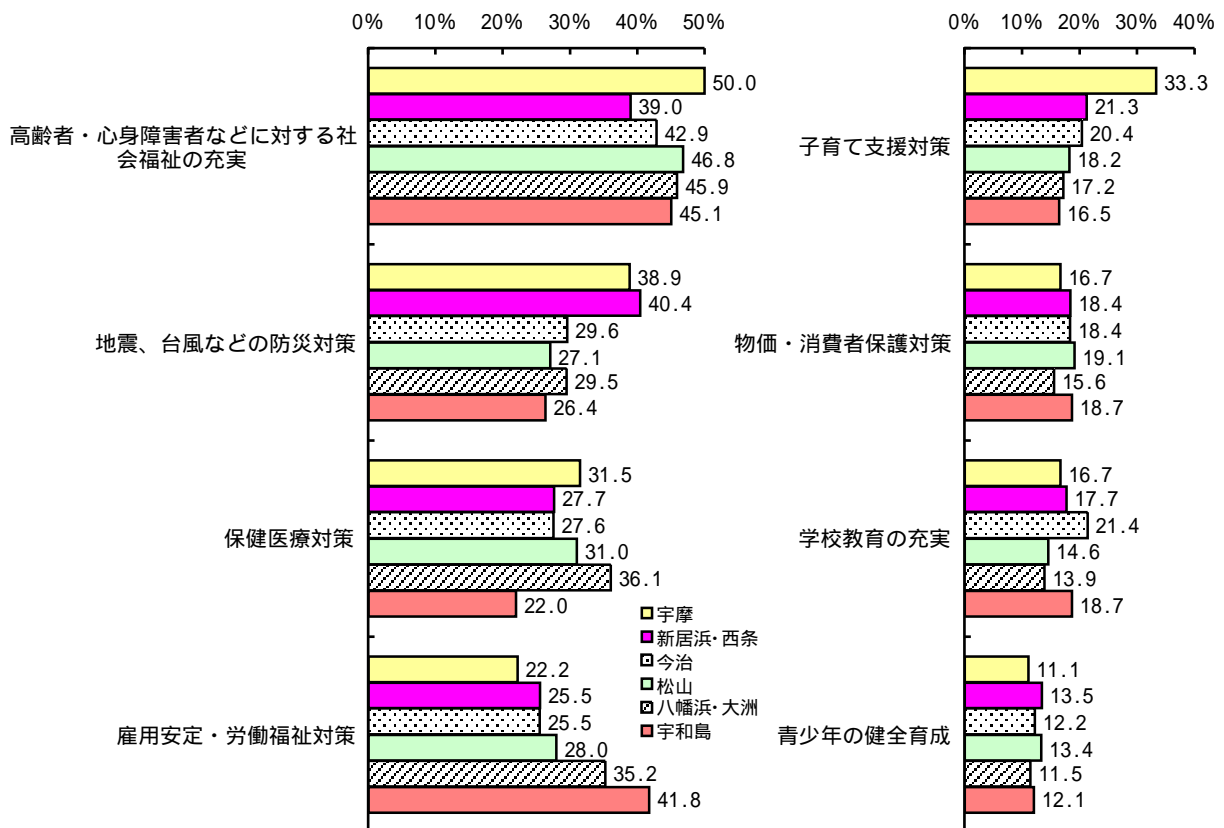
また、「高齢者・心身障害者などに対する社会福祉の充実」（9.5ポイント）、「地震、台風などの防災対策」（7.6ポイント）、「保健医療対策」（3.1ポイント）、「物価・消費者保護対策」（4.5ポイント）と答えた人の割合は男性より女性で多くっており、「青少年の健全育成」（3.8ポイント）と答えた人の割合は女性より男性で多くなっている。



【生活圏域別】

上位8項目を生活圏域別にみると、新居浜・西条圏域では「地震、台風などの防災対策」と答えた人の割合が最も多く、それ以外の生活圏域では「高齢者・心身障害者などに対する社会福祉の充実」と答えた人の割合が最も多く、中でも宇摩圏域で50.0%となっている。

また、「地震、台風などの防災対策」と答えた人の割合は、新居浜・西条、宇摩圏域で、「保健医療対策」は、八幡浜・大洲圏域で、「雇用安定・労働福祉対策」は宇和島圏域で、「子育て支援対策」は、宇摩圏域で、それぞれ他の生活圏域と比較して特に多くなっている。



2 定住意識

問4 定住意向

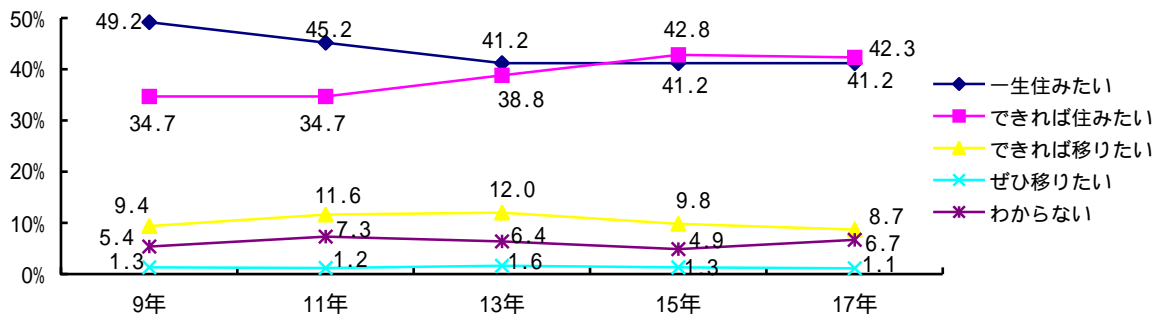
あなたは、今住んでいる地域に、これからもずっと住みたいと思いますか。次の中から一つ選んで番号を でかこんでください。

| | (%) |
|------------|------|
| 1 一生住みたい | 41.2 |
| 2 できれば住みたい | 42.3 |
| 3 できれば移りたい | 8.7 |
| 4 ぜひ移りたい | 1.1 |
| 5 わからない | 6.7 |

今住んでいる地域にずっと住みたいかどうかを聞いたところ、「できれば住みたい」と答えた人の割合が42.3%と最も多く、「一生住みたい」と答えた人の41.1%を合わせて8割超(83.4%)の人が定住意向を持っている。

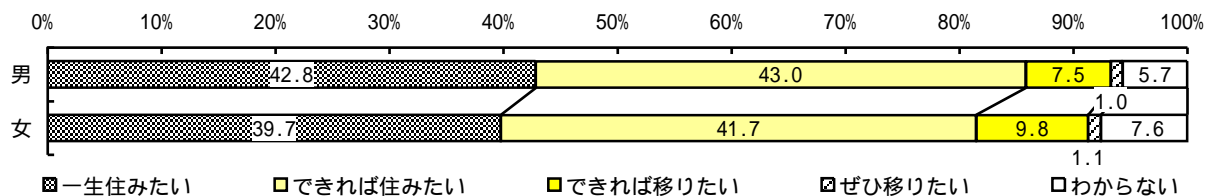
また、「できれば移りたい」と答えた人の割合は8.7%、「ぜひ移りたい」と答えた人の割合は1.1%であった。

なお、前回調査結果と比べると、住みたいとする人(「一生住みたい」及び「できれば住みたい」)の割合は0.6ポイント減少でほぼ横ばいで、移りたいとする人(「できれば移りたい」及び「ぜひ移りたい」)の割合は1.3ポイント減少している。



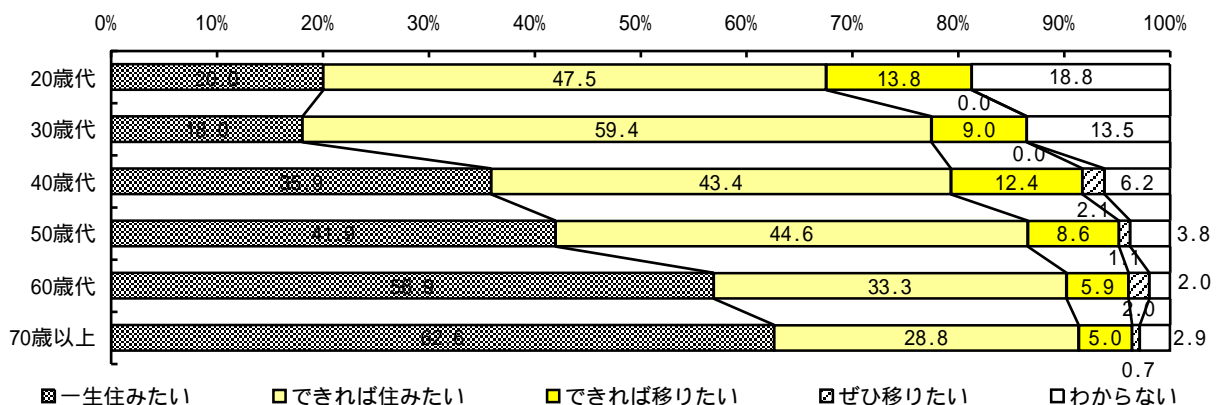
【性別】

性別に見ると、住みたいとする人の割合は男性(85.8%)が女性(81.4%)より多くなっている。



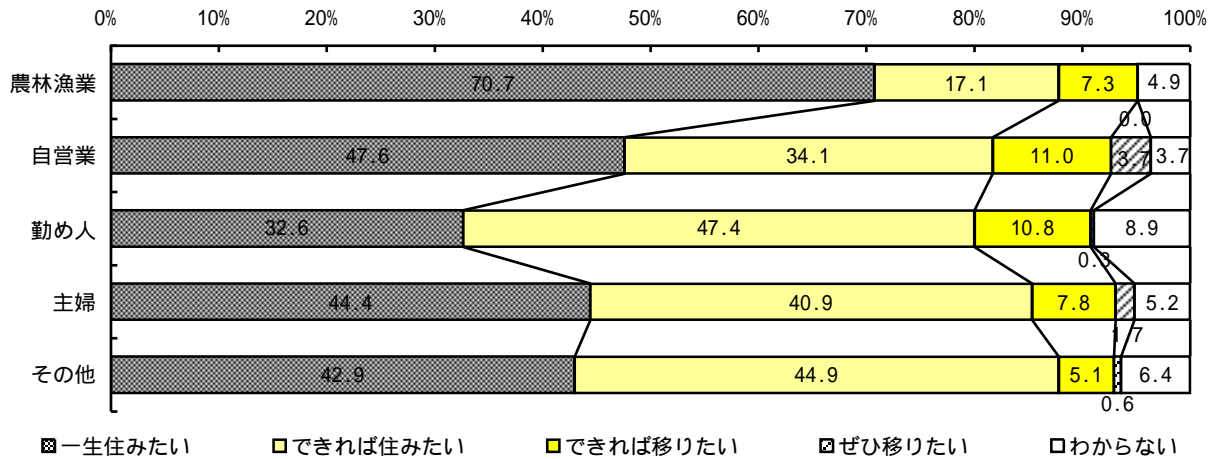
【年齢別】

年齢別にみると、住みたいとする人の割合は70歳以上(91.4%)で最も多くなっており、年齢層が高くなるに従って増加する傾向がある。



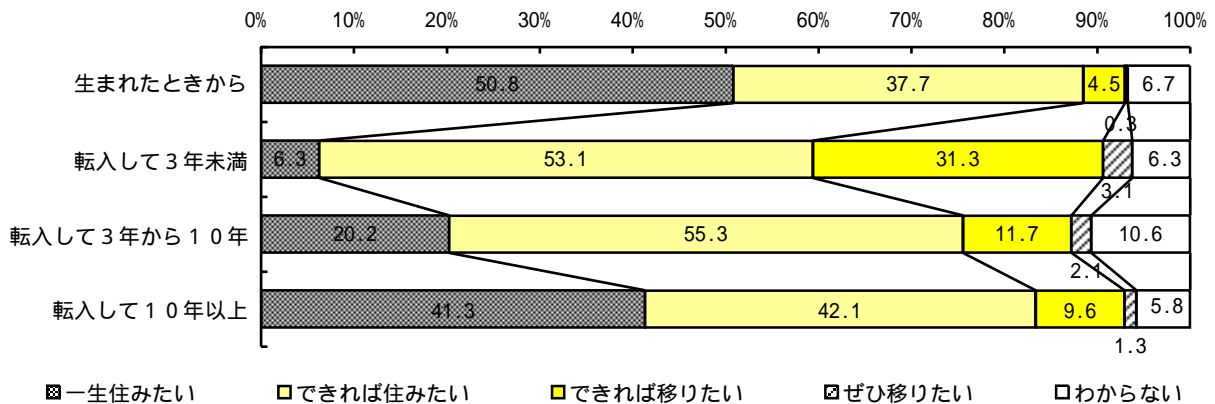
【職業別】

職業別にみると、住みたいとする人の割合は農林漁業（87.8%）で最も多く、「一生住みたい」とする人の割合も他の職業に比べて多くなっている。
 また、自営業では、移りたいと答えた人の割合が、他の職業に比べて多くなっている。（14.7%）



【居住年数別】

居住年数別にみると、住みたいとする人の割合は生まれたときから（88.5%）で最も多く、居住年数の長い人ほど、住みたいとする人の割合が多くなっている。



問5 定住のための要件

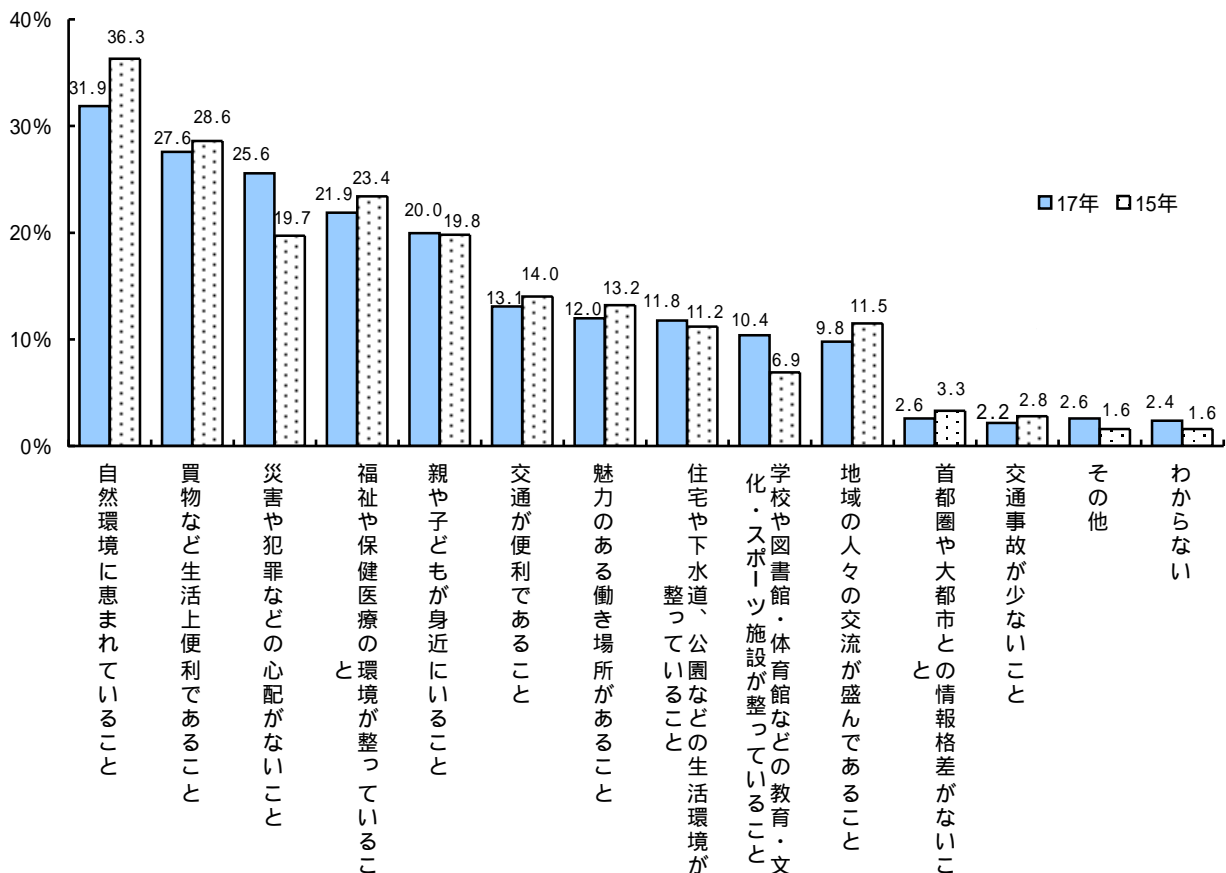
あなたが一生住みたいと思うのは、どのような地域ですか。次の中から、あなたが定住を考える上で特に重きをおくことを二つまで選んで番号を○でかこんでください。

(複数回答) (%)

| | | |
|----|-----------------------------------|------|
| 1 | 魅力のある働き場所があること | 12.0 |
| 2 | 学校や図書館・体育館などの教育・文化・スポーツ施設が整っていること | 10.4 |
| 3 | 住宅や下水道、公園などの生活環境が整っていること | 11.8 |
| 4 | 福祉や保健医療の環境が整っていること | 21.9 |
| 5 | 自然環境に恵まれていること | 31.9 |
| 6 | 買物など生活上便利であること | 27.6 |
| 7 | 交通が便利であること | 13.1 |
| 8 | 首都圏や大都市との情報格差がないこと | 2.6 |
| 9 | 災害や犯罪などの心配がないこと | 25.6 |
| 10 | 交通事故が少ないこと | 2.2 |
| 11 | 地域の人々の交流が盛んであること | 9.8 |
| 12 | 親や子どもが身近にいること | 20.0 |
| 13 | その他 | 2.6 |
| 14 | わからない | 2.4 |

一生住みたいと思うような地域の要件として、特にどのようなことを重視したいかを聞いたところ、「自然環境に恵まれていること」と答えた人の割合が31.9%と最も多く、以下「買物など生活上便利であること」(27.6%)、「災害や犯罪などの心配がないこと」(25.6%)、「福祉や保健医療の環境が整っていること」(21.9%)、「親や子どもが身近にいること」(20.0%)、「交通が便利であること」(13.1%)などの順となっている。

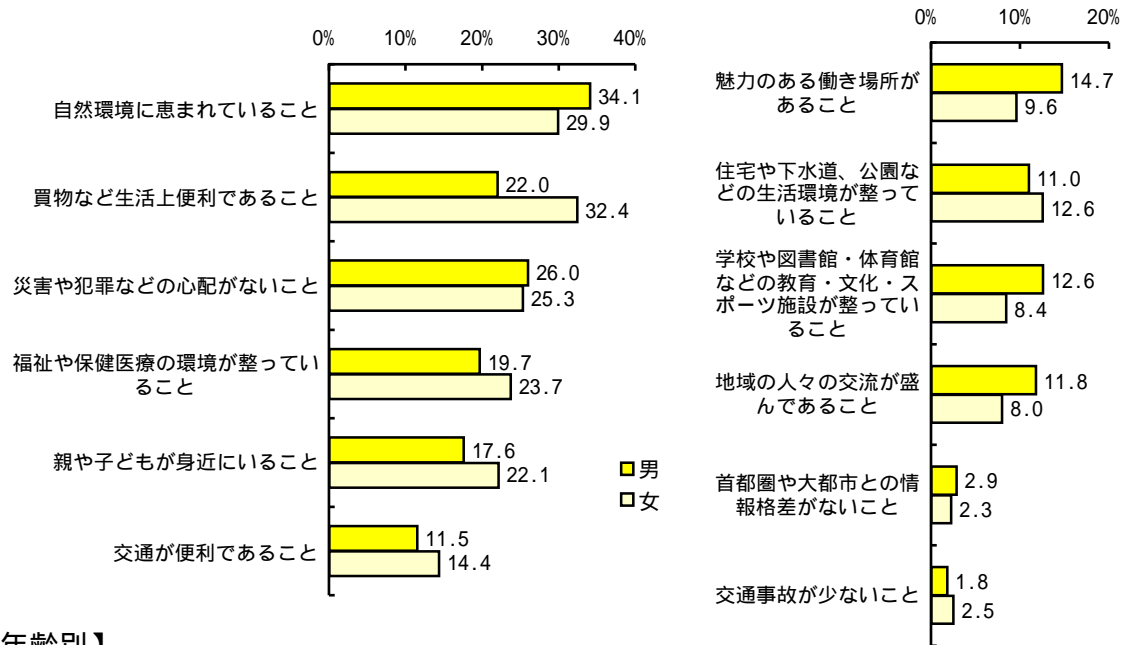
なお、前回調査結果と比べ、「災害や犯罪などの心配がないこと」が5.9ポイント増加し、第5位から第3位に上昇し、また、「学校や図書館・体育館などの教育・文化・スポーツ施設が整っていること」は3.5ポイント増加している。一方、「自然環境に恵まれていること」は4.4ポイント減少している。



【性別】

性別にみると、男性は「自然環境に恵まれていること」（34.1%）、女性は「買物など生活上便利であること」（32.4%）と答えた人の割合が最も多くなっている。

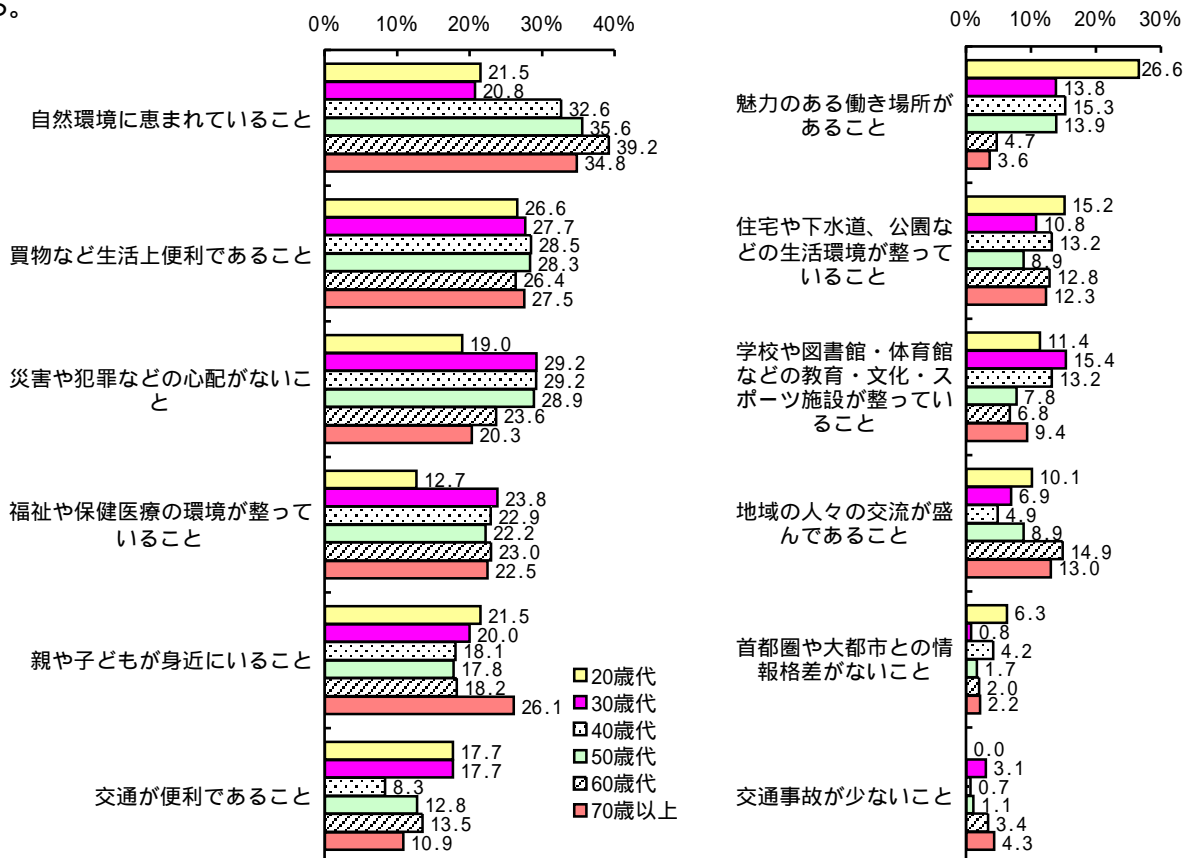
また、「魅力のある働き場所があること」と答えた人の割合は女性より男性で、「親や子どもが身近にいること」は男性より女性でそれぞれ多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、30歳代では「災害や犯罪などの心配がないこと」と答えた人の割合が、20歳代では「買物など生活上便利であること」と「魅力のある働き場所があること」が同率で、それ以外の年齢では「自然環境に恵まれていること」が最も多くなっている。

また、「親や子どもが身近にいること」は70歳以上で、「福祉や保健医療の環境が整っている」は50歳代で、「魅力のある働き場所があること」は20歳代でそれぞれ他の年齢層と比較して多くなっている。



3 県への施策要望

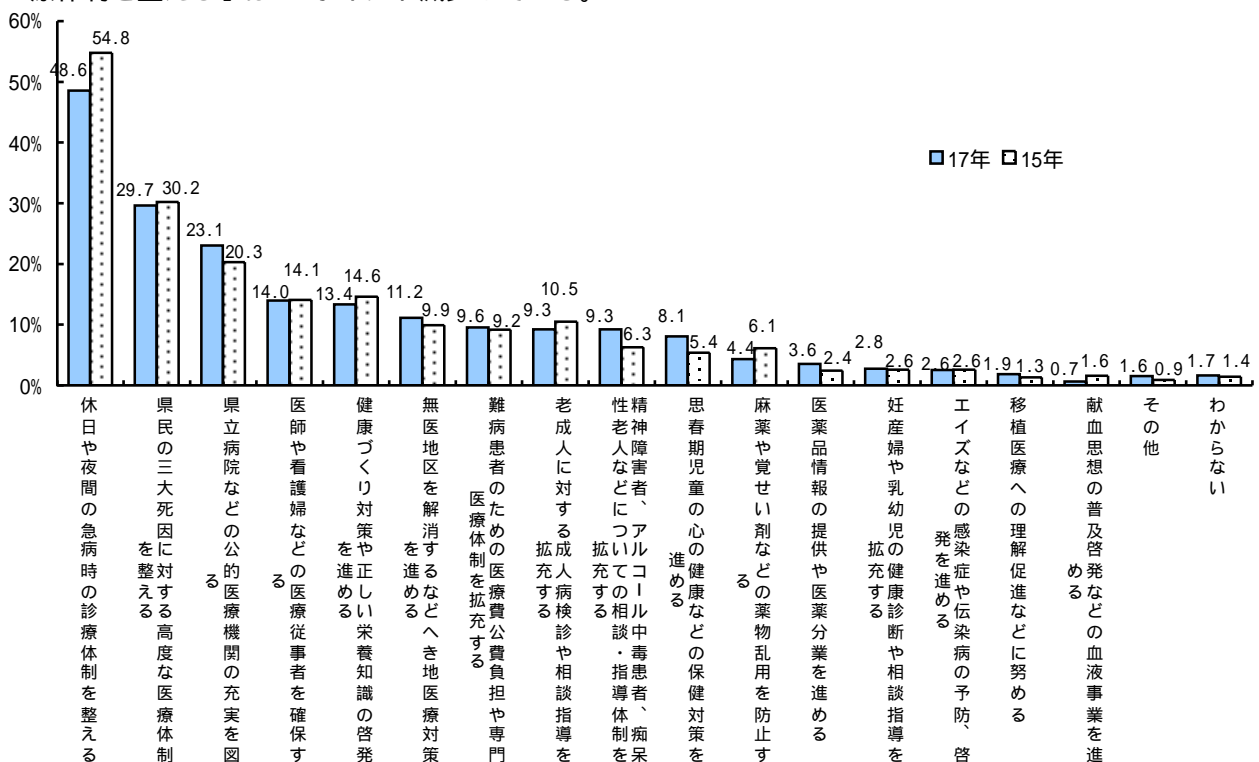
問6 保健医療対策

あなたは、保健医療対策として、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を でかこんでください。

| | (複数回答) (%) |
|---|------------|
| 1 休日や夜間の急病時の診療体制を整える | 48.6 |
| 2 無医地区を解消するなどへき地医療対策を進める | 11.2 |
| 3 医師や看護師などの医療従事者を確保する | 14.0 |
| 4 献血思想の普及啓発などの血液事業を進める | 0.7 |
| 5 麻薬や覚せい剤などの薬物乱用を防止する | 4.4 |
| 6 移植医療への理解促進などに努める | 1.9 |
| 7 健康づくり対策や正しい栄養知識の啓発を進める | 13.4 |
| 8 エイズなどの感染症や伝染病の予防、啓発を進める | 2.6 |
| 9 高齢者に対する成人病検診や相談指導を拡充する | 9.3 |
| 10 妊産婦や乳幼児の健康診断や相談指導を拡充する | 2.8 |
| 11 難病患者のための医療費公費負担や専門医療体制を拡充する | 9.6 |
| 12 精神障害者、アルコール中毒患者、痴呆性老人などについて の相談・指導體制を拡充する | 9.3 |
| 13 医薬品情報の提供や医薬分業を進める | 3.6 |
| 14 県立病院などの公的医療機関の充実を図る | 23.1 |
| 15 思春期児童の心の健康などの保健対策を進める | 8.1 |
| 16 県民の三大死因(がん、心疾患、脳血管疾患)に対する 高度な医療体制を整える | 29.7 |
| 17 その他 | 1.6 |
| 18 わからない | 1.7 |

保健医療対策として、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「休日や夜間の急病時の診療体制を整える」と答えた人が48.6%と特に多く、以下「県民の三大死因に対する高度な医療体制を整える」(29.7%)、「県立病院などの公的医療機関の充実を図る」(23.1%)、「医師や看護師などの医療従事者を確保する」(14.0%)、「健康づくり対策や正しい栄養知識の啓発を進める」(13.4%)などの順となっている。

なお、前回調査結果と比較すると、「県立病院などの公的医療機関の充実を図る」は2.8ポイント、「思春期児童の心の健康などの保健対策を進める」が2.7ポイント増加し、「休日や夜間の急病時の診療体制を整える」は6.2ポイント減少している。

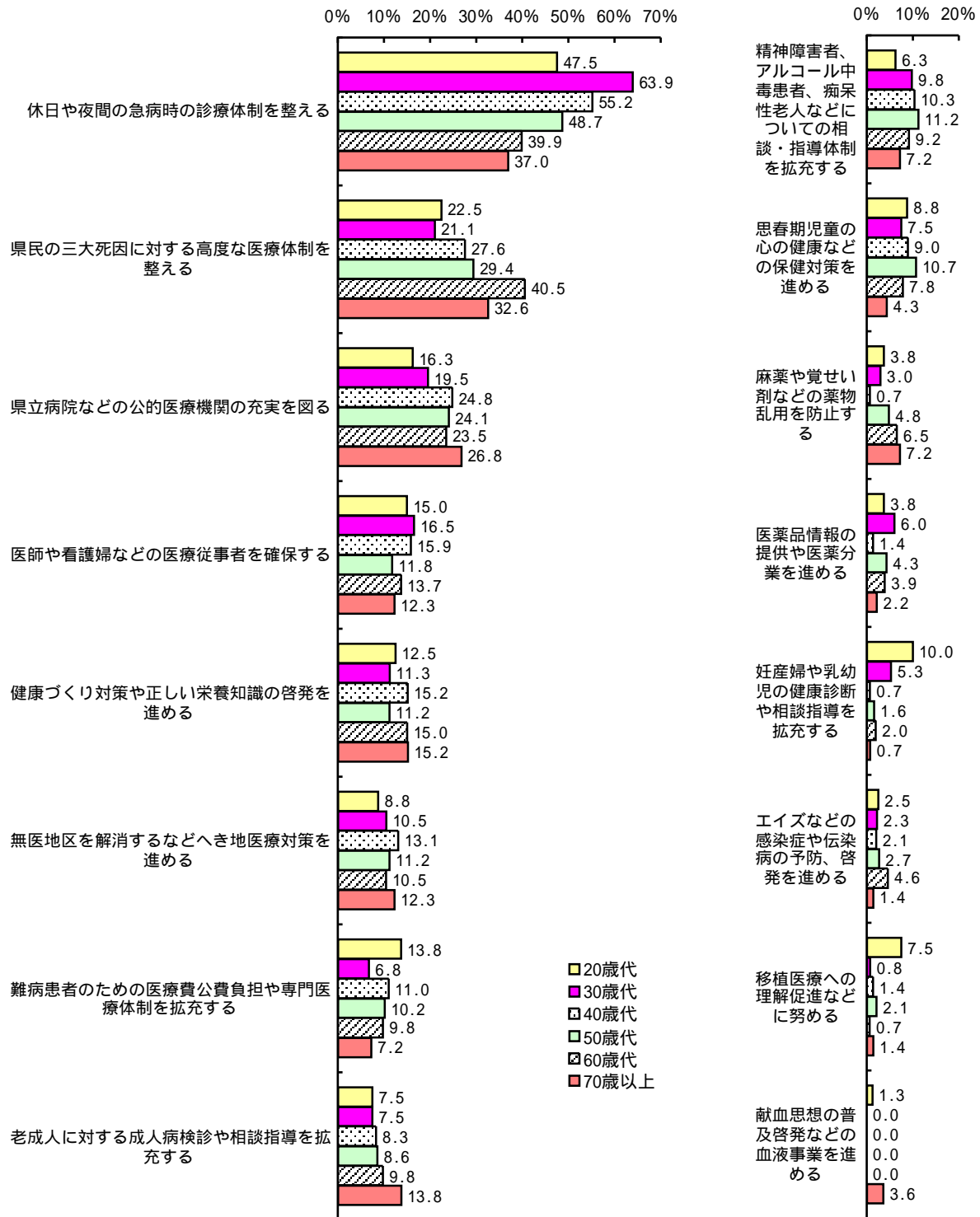


【年齢別】

年齢別にみると、60歳代では「県民の三大死因に対する高度な医療体制を整える」と答えた人の割合が、その他の年齢層においては「休日や夜間の急病時の診療体制を整える」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「休日や夜間の急病時の診療体制を整える」と答えた人の割合は30歳代で63.9%と特に多く、「県民の三大死因に対する高度な医療体制を整える」と答えた人の割合は60歳代で他の年齢層と比べて多くなっている。

「県立病院などの公的医療機関の充実を図る」と答えた人の割合は70歳以上で最も多く、概ね年齢層が高くなるほど高くなる傾向がある。「妊産婦や乳幼児の健康診断や相談指導を拡充する」、「移植医療への理解促進などに努める」は20歳代で他の年齢層と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、いずれの生活圏域においても「休日や夜間の急病時の診療体制を整える」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「県立病院などの公的医療機関の充実を図る」と答えた人の割合は宇和島圏域で、「医師や看護婦などの医療従事者を確保する」は八幡浜・大洲圏域で、「無医地区を解消するなどへき地医療対策を進める」は八幡浜・大洲、宇和島圏域で、「妊産婦や乳幼児の健康診断や相談指導を拡充する」は松山圏域でそれぞれ他の生活圏域と比較して多くなっている。

